

はくさん

繰り返す やすい

第 114 号令和 2 年夏号

伊豆市 法住寺 発行

新型コロナウイルス、今も大変なことと思います。殊に現役で働いている皆さんは殊のほかご苦労も多くお見舞い申し上げます。お寺では、法事はご家族だけの少人数とか、各種行事が中止や書面でのやり取りになる等の変化はありますが、毎日お詣りやご祈祷、相談、所用の方があり、またストップしていた祈願会や十二日講も6月から始まりました。

*

天気の良い日の午前中は庭仕事や草刈り、山仕事、午後は家の中の整頓や読んだり思

「寿量の祈り 敬意と感謝」

大自然

社会の皆さん ありがとうございます。

ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます。

合掌

合掌

合掌



機にでも乗っているよ
う…、乗り心地も良い
と思っていいたら急降下、
あれっ？と見ると、す
ぐ目の前に汗びっしょ

いを深めたり、静かで落ち着いた日々、感謝、感謝です。

5月、お寺の入口の斜面にホタルブクロが背を伸ばし始めたので、まわりのイタドリやマガサを鎌で刈ったり、ツツジの枝を払ったり、ゆっくりの作業です。その後、水路の掃除をしてお昼。作業着を脱ぎ始め帽子を取るどひさしに何か…、チャーン!! 毛虫の目が真正面、すぐ鼻の先に…。私以上に毛虫が驚いたのです、目をカッと見開き慌てて猛ダッシュ、帽子から落ちていきました。澄んだ目をしていてけっこ可愛い感じでした。そんなふうに見ることができたのは不要不急で出かけることが少なくなり、気持ちに余裕があったからでしょう。きつとツツジの下で作業で帽子につき、その後1時間位、私の帽子の上でゆっくり、アツチへ行ったりコッチへ来たり。まるで飛行

駐車場入口のホタル袋の群生



な気持ちです。ホタルブクロは群生して花を咲かせ終わりました。

*

来春にはまた毛虫が出て初夏にはホタルブクロが咲くことでしょう、あらためて大自然は「繰り返す」ことを基本にしていると想います。朝が来て夜が来る、夏が来て秋になる、地球が1回自転して1日、自転しながら太陽の周りを1周して1年、真に本当にみごとな繰り返しです。不可思議で壮大な何か、そこにはご本仏さまの意思を感じま

りの高齢者、そりゃあ毛虫もビックリですよ。

7月、もう直ぐに成虫になりそうな毛虫をまだ見かけます。早く飛び立ってくれよ、そんな

す。

私たちの生活の中でも繰り返すことで安らぐことが多くあります。夏が来てお盆、ご先祖さまをお迎えしご供養する、秋の実りにお供えをして感謝する、何百年、何千年と先人たちが地を踏んで積み上げてきた伝統、改善しながらも繰り返す、生きることの豊かさを想うのです。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

今、この時も、コロナ渦中で様々な打撃を受けながらも頑張っている方々に心からお見舞いを申し上げます。

これから私たちは「新しい生活様式に入ってゆく」ときく。そして人々は不安を抱きながらも少しづつ以前の日常を取り戻しつつある。でも今まで子供たちには「大きな声で挨拶を」と言っているが、今は「小さな声で挨拶を」になってしまった。

そう思うと私たち大人は責任を感じざるを得ない。動物と人間の距離が近くなり過

お寺裏のノリウツギ



と同じく終息を祈りつつ、そして人恋しさを蓄えながら。

*

しばらくは離れて暮らす「コ」と「ロ」と「ナ」 つぎ逢ふ時は「君」といふ字に

*

ネットや新聞で話題となったタナカサダユキさんの一句にも心が慰められた。皆各々にづらいこともあったと思います。

掃除をして片付けてすっきりしたら改めて思った。お寺は「心を整える処」なのだと。自粛明けの六月、久々に祈願会に集まった

ぎたのだろうか。いろんな想いを巡らせながら

も自粛中は、ともかく目の前の草取りや掃除に専念する日々を過ごした。皆さま

皆さんは、まずはお互いの無事を喜び合った。勿論、マスク着用、ソーシャルディスタンスはしっかりと保ちながら。
あたり前のことをあたり前に出来る日常のありがたさを思い知り小さな感謝を重ねる日々だった。これからも手を合わせ、ぶれない自分でありたいと思います。

棚経、お施餓鬼について

お盆のお施餓鬼、例年のように本堂にいっぱいの方々でお題目をあげてご供養したいのですが、コロナ予防のため次の様にお願致します。

棚経

お盆にはお精霊さんを飾りご先祖さまを今年もお迎えして下さい。

① 元村までの町内

副住職が太鼓をたたきながら各家を回り玄関、廊下等から精霊棚に向かいご回向する(家には上がらない)。

② 新盆のお宅は住職がご回向に伺う。

③ 県内は原則として伺う。

④ 京浜方面は伺わず、お寺でご回向する。

お施餓鬼

8月3日(月) 午前10時

① 新盆の方々が参列、出来るだけ参加者を限ってもらう

② 各地区を代表して護持会役員参列、その他の方々は午後から本堂、位牌堂へお詣りして下さい。

お塔婆

ご先祖さまをご供養するお塔婆はあげて下さい。

8月3日午後から各自でお塔婆を取りに来て下さい。その後お墓にお供えしご先祖さまをお送りしてお盆が終わります。

〔檀家さんには別紙詳細をお配りします〕

身延山祖廟輪番奉仕

皆さんと毎年お詣りしてきたのですが、今年は檀信徒の皆さんの参加は中止とし、静岡東部宗務所長はじめ洋明上人等の宗務所局員が代表で輪番奉仕し、ライブ配信す

御志納金「三月〜六月」

天城 鈴木 障二殿 尊父葬儀砌
下田 馬場家 殿 永代供養砌

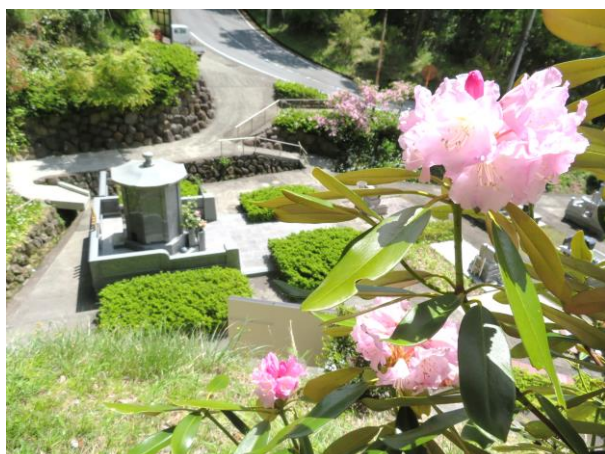
ることになりました。

日時 9月13日(日) 午前9時

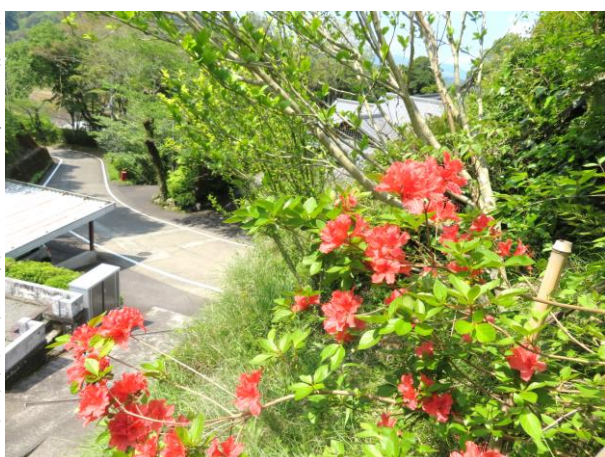
輪番奉仕料 1500円

申込み締切 8月20日 法住寺まで

皆さんのお祖師さまへのご給仕の気持ち(輪番奉仕料)を頂き、身延山御宝前でご芳名を読み上げ報告いたします。ぜひご賛同お願い致します。また当日は皆さんで手を合わせてまいりましょう。



何時もは目に見えない、寿量の塔の崖上の天城シャクナゲ



何時もは目に見えない、第一墓地北斜面のヤマツツジ

目に

見えないモノ

見えるモノ

新型コロナウイルスは1mmの1万分の1程の大きさだと聞き、私たちの身の回りには目に見えてないモノが沢山あることを想います。宇宙からの光には何百万年前のものがあのだそうです。光の速さは地球から月まで2秒かからない、太陽までは8分20秒、それが何百万年も前の光が現実として地球に今届いている、その距離を想像しようとするとうと頭がクラクラです。大きな太陽系が米粒程にもならないかも知れませんが、あらためて目に見えなくても存在するモノ、科学で確認できてなくても存在するモノがあるだろうなあと思います。



繋げて行きなさい

繋いで生きなさい

今から七六〇年前の五月十二日、日蓮聖人が幕府により鎌倉由比ガ浜から伊豆の伊東へ流されました(伊豆法難)。伊東の海中まな板岩に置き去りにされた日蓮聖人、そこを船で通りかかった漁師の船守弥三郎さんに救われます。その後、船守弥三郎ご夫婦は川奈の洞窟(お岩屋)で約三十日間、日蓮聖人をかくまい御給仕しました。

*

そこで毎年五月十二日の伊豆法難には日蓮宗青年会の十数名と大きな団扇太鼓を叩きお題目をお唱えして、川奈から伊東市内まで十キロほどを行脚をする。しかし今年は新型コロナウイルスの影響で行脚は中止。それならば、自分一人で行脚をしようと思っっていると、情熱の塊のような後輩からの電話。「自分だけでも行脚します」と言うではないか。嬉しいことに私と同じ思いを持っていた後輩がいたのだ。と云うことで城

ヶ崎海岸にある日蓮崎から、日蓮聖人がかくまわれた川奈蓮慶寺のお岩屋まで十キロ、そこから後輩のお寺がある宇佐美まで十二キロのルートで行脚をスタートした。

*

ちょうど昼にお岩屋到着。お岩屋の日蓮聖人にお題目をお唱えしていた時の事である。聖人の御尊像が「ここ伊豆の地で脈々と唱えられてきたお題目、多くの先師、皆様のご先祖さまが繋げてきて下さったお題目、そして今日ここまで唱えてきたお題目。そのまま中伊豆法住寺まで、ご先祖さま、檀信徒の元へ、繋げて行きなさい、繋いで生きなさい」と言われた気がしたのである。その瞬間、日蓮聖人の法華経弘通の情熱が伝わってくる様で熱い思いが込み上げてきた。

これこそ日蓮聖人からの情熱のメッセージであると思い、急遽川奈で後輩と別れルート変更。川奈から中伊豆まで、法住寺の檀家さん、各地の信者さん、ご先祖さまに、今日この日に日蓮聖人から頂いたお題目、情熱のお題目を届けたいと思い、中伊豆へ向け峠越えの行脚を再開したのである。

途中の峠道では、なかなか足が上がりな

くなる。そんな時、お題目の声と心と体は比例する。お題目を力強く唱えれば不思議と足が前にでる。時には「途中で誰か車に乗せてくれないかな」などと弱い自分が顔を出す。しかし檀信徒の皆さん、ご先祖さまに、日蓮聖人の情熱と、お題目を届けたいと思うと不思議と力が湧き唱題に勢いが増す。道中お題目と太鼓を聞いて、檀家さんが走って追いかけて来て下さる、お題目に縁がある方が道端でそっと手を合わせて下さる。人は自分の為ではなく、誰かの為と思うと、いくらでも頑張れるのだなと改めて実感。また、そういう思いにさせて下さる皆さんとのご縁が嬉しくありがたいなあ」とまた実感。その皆さんが各地にいて下さること、また皆さんの今を繋いで下さったご先祖さまがいること、そこにお題目をお届けする、これこそ法悦感謝極まりなし。

仏天のご加護と、皆さんのお陰さまを頂き無事お寺に到着したのは夜七時前。終わってみれば三十七キロの人生最高の伊豆行脚であった。